

班通信

No. 13



クマガイソウ

令和6年5月9日

さいたま市
岩槻班退職校長会

事務局：090-5826-3329 (岡野)

全議案を原案通り可決

新会員を迎えて令和6年度「定期総会」を開催

4月20日(土)、ほてい家で22名の会員の出席を得て、新年度の活動計画が決定しました。今年はより出席しやすいよう昼間に開催し、4年ぶりに懇親会も実施、和やかに交流の時間を持つことができました。

また新たに金今義則氏(川通中)と染谷隆氏(八王子中)の2名が加わり会員数は49名となりました。お二人は定年延長で現在も現役の教職員ですが、役職定年制により今年から入会となりました。新しい力の活躍を期待します。



総会挨拶 新里会長



懇親会締め 静井監事

対外連携・支援活動が本格化

対外連携事業は、本会が取り組む事業の大きな柱です。昨年度から始めた岩槻児童センターとの連携事業は、長期休業中を中心に12の講座や事業を行うことができ、ほぼ軌道に乗ることができました。これを契機として他の公共施設や青少年育成諸団体等との連携を進めていきたいと考えています。

一方学校との連携事業は、学校の負担を増やさず双方がWin-Winになるよう慎重に進めています。昨年度は1年間を通して学校の諸活動の中で、外部人材を導入したい具体的場面の収集を校長会の場で依頼し、年度末に報告してもらいました。その結果7校の校長から要望がありました。また、会員に対しては7月に「提供できるボランティア内容」を調査し、その結果は「学校・地域の活動を支援するボランティア一覧」として冊子にまとめました。今後これを各学校、諸施設・機関に配付し利用をお願いするわけですが、それらに対応するため会の組織にコーディネータ役となる総合窓口を設け、申し込みの書式や専用のメールアドレスを整えたところです。ただ、学校については校長が交代した学校も多く、改めて事業の趣旨を説明し新たな要望の把握も必要になります。昨年度から継続の学校については、個々の要望とのマッチングを進めていきます。いずれにしても対外連携では常に相互理解を図ることが必須であり、そうした機会を心掛けていきたいと思えます。

春休みの岩槻児童センターとの連携事業が盛会裏に終了

当初の計画通り、昆虫写真展「市内で見られる春のチョウたち」、お話とスライド投影「モンシロチョウのひみつ」、竹細工教室「竹のリングを作ろう」、ビックリ！実験ショー「笛って何？・笛を作ろう」の4事業が行われ、いずれもたくさんの子供たちの笑顔が輝いていました。



制作した竹リング



制作した笛4種

6年度当初人事 区内9校の校長が交代

年度当初の人事異動で、交代した各校の校長は次の通りです。

- 川通小学校 葉抱 敬介 (上木崎小から)
- 柏崎小学校 大塚 雅之 (植水小から)
- 東岩槻小学校 川添 倫義 (向小から)
- 西原小学校 豊田 由香 (科学館から)
- 城南小学校 加納 浩美 (指扇北小から)
- 岩槻中学校 金子 宜史 (城南中から)
- 川通中学校 鈴木 純 (泰平中から)
- 城南中学校 吉原 誠士 (与野南中から)
- 慈恩寺中学校 高波 國夫 (大谷中から)

多田清作会員に長寿の賀詞が贈られました

この度全国及び埼玉県退職校長会から、米寿(88歳)の長寿会員として賀詞が贈られました。おめでとうございます。ご健勝にてお過ごしください。

県退職校長会個人番号のご確認を

県退職校長会では、6年ごとに会員名簿を改訂し、全会員に配付してきましたが、改訂年の今年は名簿の全員への配付は取りやめました。そこで会員の個人番号は班総会要項の末尾に添付しましたのでご確認ください。

「会報 No.26」訂正をお願いします

- ① P5, 2段目3行目、政治を政府に訂正
- ② 上記の訂正箇所その他、会報を配付する以前に10か所の編集ミスを見つけ、シールを貼り、訂正いたしました。投稿された皆様に深くお詫び申し上げます。編集担当 萩原 昇

季節だより カラスノエンドウ



赤紫の蝶形花

草むらや道端でよく見かけるマメ科植物で、春先に茎の先端の巻きひげを絡ませて成長します。蝶のような花(蝶形花)は赤紫色の2枚の大きな花弁を目立たせ、虫を誘い込みます。初夏になると小さなエンドウ豆のさやの中に6~10個の種子を実らせ、完熟すると黒くなるので「烏野豌豆」の名がつけられました。やがて乾燥すると、さやがはじけて種子が飛び出し分布を広げています。また葉の付け根には蜜腺である黒い斑点があり、この蜜を求めてアリが訪れ、葉などを食害する虫を追い払うボディガード役を担っています。ところが、カラスノエンドウが生産した栄養分を吸って生きるアブラムシは例外です。というのはアブラムシが吸収した栄養分の余りの糖分を尻から排出する「甘露」はアリの好物で、アリはこれも得るためにアブラムシを襲うテントウムシなどの天敵から守る役割も果たしているのです。カラスノエンドウに近い種類にスズメノエンドウがあります。こちらは葉も花も小さいのでカラスに対するスズメであり、その中間の大きさのカスマグサ(カとスの間)という種類も存在しています。